

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年10月7日

新型コロナサバイバーの1年後のメンタルヘルス：中国湖北省のホワンガン市

【松崎雑感】

中国で、昨年 of 新型コロナ罹患者の1年後のメンタルヘルスを調査したデータです。半数近い「コロナサバイバー」に不眠、うつ状態などのメンタルヘルスの不調があるとのこと。問診票調査ですから、主観的申告に基づいているというリミテーションはありますが、患者さんの背景因子（基礎疾患、喫煙、学歴、肥満状態など）とメンタルヘルスの関連を調べたところ、喫煙者は極めて有意に、不眠、うつ状態、PTSDなどの「ロングコロナ」症状が多いことがわかりました。喫煙がメンタルヘルス改善に資するという、タバコ産業の古びた主張を未だに喧伝する向きがありますが、コロナサバイバーでも、喫煙がまぎれもないメンタルヘルス悪化因子であることがわかります。

新型コロナサバイバーの1年後のメンタルヘルス：中国湖北省のホワンガン市

Li Z, He J, Wang Y, et al. **A cross-sectional study on the mental health of patients with COVID-19 1 year after discharge in Huanggang, China** [published online ahead of print, 2022 Oct 3]. *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci*. 2022;10.1007/s00406-022-01484-8. doi:10.1007/s00406-022-01484-8

目的

入院した新型コロナ患者の退院から1年後のメンタルヘルスの状態を評価。

方法

2021年4月11日から5月11日ホワンガンの535名の新型コロナサバイバーを対象に問診票調査を行った。

睡眠の質、倦怠感、不安、うつ状態、PTSDを以下のスケールで評価した：

7-Items Generalized Anxiety Disorder Scale, Patient Health Questionnaire-9, Impact of Event Scale-Revised, Pittsburgh Sleep Quality Index, and Fatigue Scale-14。

結果

コロナサバイバーの1年後症状の頻度：睡眠の質低下47.1%、倦怠感29.3%、不安15.7%、うつ状態20.9%、PTSD24.3%。

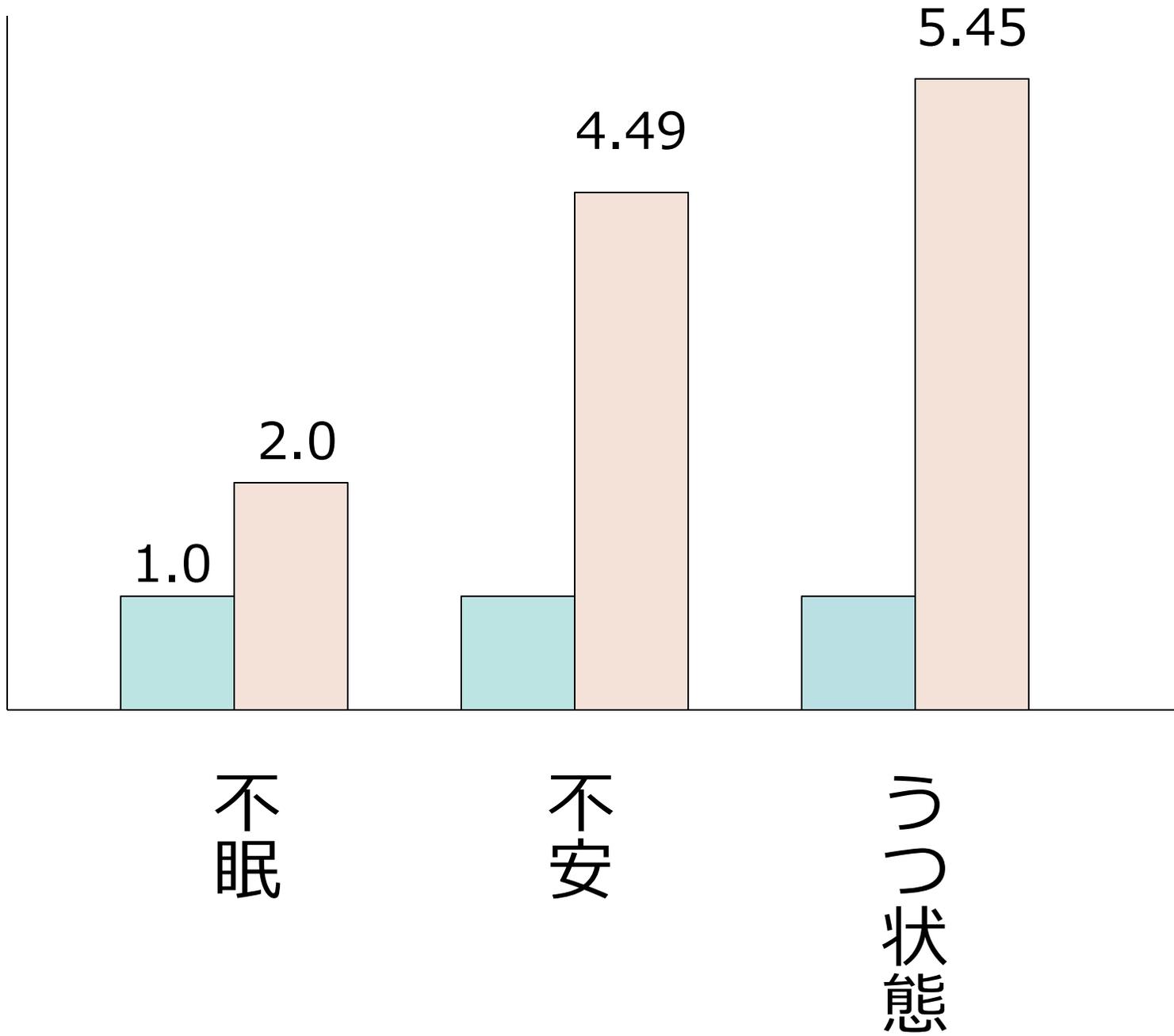
慢性疾患がある場合、睡眠の質低下（オッズ比2.3）、うつ状態（1.95）が有意に多かった。

喫煙者では、睡眠の質低下（2.0）、不安（4.49）、うつ状態（5.45）が有意に多かった。（次スライド参照）

大卒者に比べて、高卒では不眠、PTSDが有意に多く、中卒ではPTSDが有意に多かった。

BMIが23以上の者と比べて、それ以下のBMIの者は有意に倦怠感が少なかった（オッズ比0.60）。主婦であることおよび家族が多いことはPTSDリスクを有意に低下させていた（0.39、0.40）。

非喫煙者
■ と比べた喫煙者の
■ のオッズ比



結論

感染から1年後でも、少なくない人々が、不眠、倦怠感、不安、うつ状態、PTSDに悩まされていることが分かった。

慢性疾患のある者はこれらが有意に多かった。低学歴もメンタルヘルス低下の要因だった。メンタル面のロングコロナに対する政府の政策的支援が必要である。